

研究課題	秋冬期における一,二年生草花の展示栽培（ローダンセ）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	海津 朋之, 山口 次郎, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（3年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。当該品目は新規。

2 方法

(1) 試験場所：農業活性化研究センター内鉄骨ハウス4

(2) 供試品種：(2品種)

ピエロホワイト<フクカエン>

センセーションジャイアント<フクカエン>

(3) 試験区の構成・規模

各品種各80株（40株×2反復）

(4) 耕種概要

ア 播種：7月5日

イ 定植：7月21日

ウ 栽植様式：畝幅80cm, 条間15cm, 株間15cm, 4条植え（33,333株/10a）

エ 施肥：基肥（kg/10a）N-P₂O₅-K₂O=15-15-15

追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

オ 電照：定植から日長延長（日没後～PM10:00）

カ 摘芯：なし

(5) 調査項目

採花日, 採花本数, 切花長, 莖径, 節数, 側枝数, 切花重

3 結果の概要（表1）

(1) 発芽は良好で生育も旺盛であり、採花率は両品種とも高かった。

(2) 平均採花日は両品種とも10月前半となった。

(3) 切花長は平均で、ピエロホワイトが87.4cm, センセーションジャイアントが93.4cmと十分な長さのものが採花できた

(4) しかし、生育が極めて旺盛で、草勢著しく、扱いが大変煩雑であった。（図1）

4 考察とまとめ

本試験では、本来秋播き春咲き（もしくは晩冬播き初夏咲き）のローダンセを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。生育は旺盛であり切花長平均はピエロホワイトが87.4cm, センセーションジャイアントが93.4cmと十分な長さの切花が採花できた。

ただし、草勢が非常に強く、扱いが大変煩雑となった。メーカーの品種情報においても、“旺盛な植物であり、締めて栽培することで良花が得られる”旨が記載されているため、最低限の水分量となるよう試みたが、本作型においては草勢の制御が困難であった。

また、採花の際は通常、切花長をより長くとるため、できるだけ切断箇所を下部として採花が行われるが、目視できず、作業性が著しく悪かった。

当該品種を本作型で作付けするには課題が大きいといえる。

表1 ローダンセ切花結果

品種名	採花日			到花日数 (日±S.D.)	採花率	切花長 (cm±S.D.)
	平均	開始日	終了日			
ピエロホワイト	10/8	10/4	10/21	95.8 ±6.4	100.0%	87.4 ±11.2
センセーションジャイアント	10/10	10/4	10/21	97.7 ±7.1	100.0%	93.4 ±14.7

品種名	切花重 (g±S.D.)	花径 (cm±S.D.)	茎径 (mm±S.D.)	節数 (節±S.D.)
センセーションジャイアント	15.6 ±6.0	3.9 ±0.6	3.3 ±0.8	111.3 ±16.3

(n = 20)



図1 ローダンセ写真 (左：ピエロホワイト, 右：センセーションジャイアント)